

緑内障薬物治療アップデート

日時

2015年4月18日(土) 11:55~12:55

会場

さっぽろ芸術文化の館 1F 第1会場(ニトリ文化ホール)
〒060-0001 札幌市中央区北1条西12丁目



座長

谷原 秀信

先生 熊本大学大学院 生命科学研究部 眼科学分野 教授

座長のことば

緑内障は、我が国における失明原因第一位であり、適切な治療で眼圧をコントロールすることが極めて重要である。現時点で、我々が処方できる緑内障治療薬の大多数は、房水産生抑制、または副流出路(ぶどう膜強膜流出路)からの房水流出促進が主な作用であった。当然ながら、多剤併用においても、これらのメカニズムを組み合わせるものであった。昨年12月、直接的に主流出路(線維柱帯流出路)をターゲットとして眼圧下降効果をもたらす選択的ROCK阻害薬が新しいカテゴリーの緑内障治療薬(製品名:グラナテック点眼液0.4%)として発売された。第三の奏功機序として、ROCK阻害薬が処方上の選択肢に加わった今、緑内障薬物治療は、どのように変わるだろうか?

緑内障は、病型により多彩な眼圧上昇の病態が存在していると推定されている。また患者の残存視機能やリスク要因、年齢などの背景によって、目標眼圧を適切に設定することが必要となる。

本ランチョンセミナーは、緑内障の病態および緑内障治療薬の特性という2つの側面から、最良の眼圧コントロールを得るための処方戦略に関するアップデートされた情報を解説していただくことを目的として企画した。

講演1



房水流出異常の実態：主流出路へのフォーカス

演者

稲谷 大

先生 福井大学医学部 眼科学教室 教授

講演2



緑内障治療薬 up-to-date：最適な治療選択を求めて

演者

相原 一

先生 東京大学医学部 眼科学教室 教授